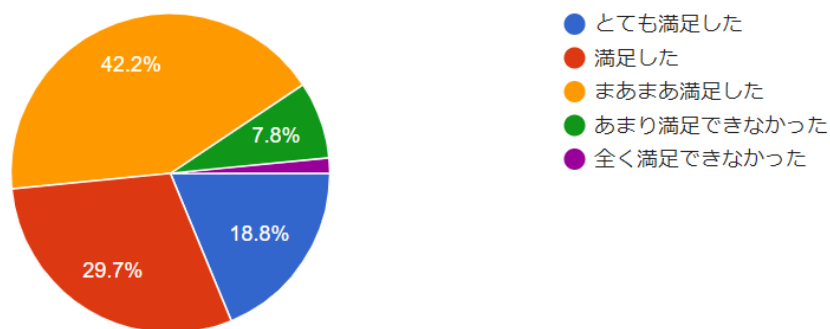


第4回プラスチック削減オンライン連続セミナーアンケート結果

本日のセミナーの満足度を5段階からお選びください

64件の回答



本セミナーで最も印象に残った事

1	本日のセミナーの中で最も印象に残ったところは何でしたか
2	語彙が難解でした。
3	大量生産大量リサイクル→サーキュラーエコノミーへの転換
4	メーカー側の話は、自分から勉強しないので、興味深かった。(でも、最後のグリーン購入 NW のような消費者側の話ももう少し聞きたかった。
5	資源やエネルギーを無駄なく活用することも大事だが、社会で使用する資源やエネルギーの総量を減らす大転換が必要だと痛感する。
6	所有からの切り離しという意識を持つこと
7	メーカーだけではできないということ
8	リサイクルをどのようにビジネスにつなげていけばよいのか、イメージがつかめた点
9	シェア経済への移行
10	サーキュラーエコノミーは、儲かることが基本
11	サーキュラー・エコノミーが企業にとって利益なら拡大生産者責任ではなくなる
12	CE は儲かるということ
13	EU の CE に対する考え方と取り組み
14	サーキュラーエコノミイという概念。EU ではそれを中心に進みつつあること。

15	価値観の変化 Absolute Sustainability
16	CE のイメージがはっきりしてきた
17	もの、情報、お金が循環する仕組みづくりが日本では未だに確立されていない事
18	循環型経済が、雇用の確保や競争力の強化につながるという、EU の考え方
19	EU がサーキュラーエコノミーに取り組みが進んでいるが、3R もドイツなどが先進的な役割をはたしたことが興味深いと思った。
20	EU では、CE が雇用の確保や競争力の強化につながっていること。
21	EU の CE の話。発想の転換がすごい。
22	「絶対量ではかる持続可能性」を取り込まないと企業はやっていかれなくなる！こと
23	サーキュラーエコノミーの基での拡大生産者責任との関わり
24	CEに対して基本的な理解が未熟だったので大変勉強になりました。 ただ、消費者も含めた社会の姿勢、ライフスタイルなど変わって(変えて)いかななくてはならない要素が多く、日本はついて行けるのかとても心配になりました。社会的なコストはシステムを変えることで平等に背負っていけるのではないかとも思います。 若い人にも聞いてもらって起業チャンスを掴んで欲しいとおもいました。
25	リマン技術の紹介、家電リサイクル法の評価、CE と拡大生産者責任の関係 一部理解し難いところもありますが、全体に大変興味深く参考になる内容でした。
26	消費者が最も力を持っている
27	CE の普及とともに EPR のバージョンアップ又はメーカーの責任が無くなるだろうという点
28	循環型社会の構築がゴールではなく、次のステップがサーキュラーエコノミーであるということ
29	耐久消費財の CE に関して EU の考え方・取り組み方を知り、これからのメーカー(企業)にはモノの作り方に循環させる新たな発想が必要で、日本人の消費者もこの時代の転換期に発想の転換も必要だと痛感した。
30	消費者(市民)の立場から...国が示した「プラスチック資源循環戦略」、国会上程中の「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」を、CE の視座からどう評価できるのか?...この点が今回のセミナーで少しは見えてくると期待していたのですが、答えは見えず、質問にもまとめられず、もどかしく感じています。継続して考えていきます。

31	<p>世の中が 再生可能へと移行していくこと歓迎いたします。</p> <p>数十年前までは 再生可能な時代でした 物は 再生の手を何度も加えられ 命を全うしていました。便利さを追求し 便利さに慣れた今 数十年前の状態へは押し戻せませんが消費者は本当に正しい選択で 企業の選択が狂わないよう 監視する力を備えなくてはなりませんね。</p> <p>勉強不足ではありますが 消費者が 利便性だけに流されないことの大切さ 判りました。</p> <p>貴重な 講義ありがとうございました。</p>
32	<p>CE を経済振興にもつなげようとしていること</p>
33	<p>経営やものづくりの中心にサステナビリティがあり、製品を消費者が使用することでチェック、監視することが必要であること。そして資源の 100%循環し、資源の新規採掘をゼロにする……</p> <p>より快適で便利さを追求し経済を優先して先進国こそ目標年収を設定して推進することが重要ではないか。コロナ禍の今こそ!! と実感しました。</p> <p>事前に資料提供もありまし、わかりやすく安心して受講できました。「ありがとうございました！」</p>
34	<p>日本の家電リサイクルの評価を前提とする EPR の捉え方に疑問が残りました。ごみ処理問題についてのお考えを聞けなかったのが残念。しかし、EU の政策には興味深い点が多く、ものづくりを取り巻く環境の多様性や消費者のライフスタイル(グリーン購入)の変革が必要な転換期に立たされていることは理解できました。</p>
35	<p>資源を100%循環する仕組みづくり。クリアしなければならない課題はたくさんあると思う。果てしなくプラスチック生産が進み大量生産～大量廃棄が長期にわたって続いたようなことは2度と繰り返さない社会を未来へ繋ぐ責任を果たしたいと思う。</p>
36	<p>生協の組合員になってから実践している消費者の選ぶ力や、考え方が世の中の流れや仕組みを変える力になることを強く感じました。持続可能な地球にするための EU で進められている材料利用のことや、今後企業の活動の中心がよりサステナビリティを中心に据えられるようになっていくことが順序だてて聞けてとてもよかったです。</p> <p>どうしてもリユースやリサイクルというと、悲観的な話が多いように感じていたが、今からできることもたくさんあることに気づけてとてもよかったです。</p>
37	<p>サーキュラーエコノミーは、資源の循環的利用を儲かるビジネスにすることを指すもので、市民とは縁遠いものと思っていましたが、セミナーを聞いて、社会の在り方全体を変えていくものであることが理解できました。</p> <p>ただし、日本ではこのような取り組みは企業の自主性に委ねる傾向が強く、なかなか進まないことが多いので、法律でこれを推進するための枠組みをつくる必要があると考えます。</p>
38	<p>サステナビリティを企業活動の中心に取り込まないとやっていけなくなるというところ</p>
39	<p>特になし</p>
40	<p>EU の CE 政策に関する説明。拡大生産者責任の今後の考え方に関するお話し。</p>

41	先日セミナー直後に送信しましたが、念のため送ります。前回といくぶん内容が違ってきます。CEの知識が全くなかったのが、衝撃的な内容でした。耐久消費財のメーカーの(一定期間を過ぎたら保証・部品がなくなり新しい物を買おうとする)姿勢を、消費者側は諦めを持っていつからか受け入れてしまっていました。時代の転換期にこれではいけないと改めて気づかせて頂きました。持続可能な未来のためにも、社会(政府も)がサーキュラー型の製品が企業にも消費者にも利益になる様な仕組みを、EUに離されない様、早く構築して欲しいと思いました。
42	海外のプラスチックの動向
43	日本の企業の実情
44	CEを追求することが雇用の増加や競争力の強化につながるという考え方。それには「お片付けの論理」を超える必要があること。
45	これからは、サステナビリティを考えていかないと、企業が生き残れない
46	欧州と日本の政策のギャップを痛感した
47	サーキュラーエコノミーと拡大生産者責任
48	ものを購入するのではなく、サービスを購入する方向に変わってきている。
49	サーキュラー・エコノミーによってライフスタイルをどう変えることができるかということを考え実践していきたいと強く思いました。一人一人の行動無くして持続可能な循環型社会は実現しませんね！
50	これからの、企業の在りかたに期待したいと思いましたが、言葉が少し難しかったです
51	自分の勉強不足。私程度の知識では難しかったです。もっと、勉強しなくてはならないことです。

本日のセミナーの難易度を5段階からお選びください

64件の回答

